

## 今週の為替相場見通し(2018年6月4日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		108.12 ~ 109.83	109.50	108.40 ~ 111.00
ユーロ	(ドル)		1.1510 ~ 1.1728	1.1661	1.1480 ~ 1.1780
(1ユーロ=)	(円)		124.62 ~ 128.53	127.74	124.80 ~ 128.80
英ポンド	(ドル)		1.3205 ~ 1.3360	1.3348	1.3250 ~ 1.3500
(1英ポンド=)	(円)	*	143.20 ~ 146.31	146.17	144.50 ~ 148.00
豪ドル	(ドル)		0.7477 ~ 0.7593	0.7569	0.7400 ~ 0.7600
(1豪ドル=)	(円)	*	81.03 ~ 83.07	82.91	82.00 ~ 84.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

### 1. 米ドル

為替市場第一チーム 森田 大貴

(1)今週の予想レンジ: 108.40 ~ 111.00 円

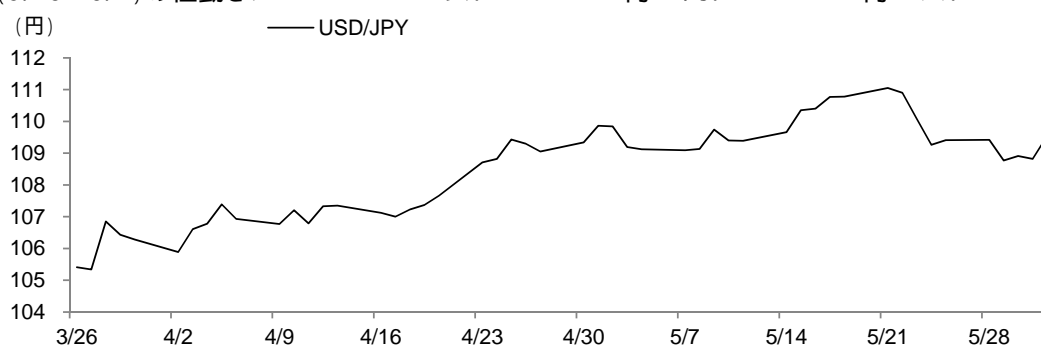
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週初に下落後、週末にかけて上昇する展開。週初5月28日に109円台後半でオープンしたドル/円は一時週高値となる109.83円をつけたが、週末にスペイン最大野党・社会労働党がラホイ首相に対して不信任決議案を提出したことや、イタリアでEU懐疑派であるサボナ氏の入閣が大統領に認められず連立政権樹立に失敗したことが懸念され109円半ばまでじり安の展開。欧米祝日明けの29日はイタリアやスペインの政局混迷が意識され、リスク回避の動きが強まると108円台半ばまで下落した。その後は109円台を回復する場面も見られたが、米4月消費者信頼感指数が下方修正されたことや、イタリアでは早ければ7月末に再選挙が行われEU懐疑派が勢力を伸ばすとの懸念が強まったことから一時週安値となる108.12円をつけた。しかしこのレベルでは買い意欲も強く108円台後半まで反発。30日はイタリアでサボナ氏が閣僚入りを辞退との報を受け、ユーロ/円が買い戻される展開にドル/円は109円近辺まで連れ高となった。31日は米政府が6月1日からEU、カナダ、メキシコなどに対して鉄鋼・アルミの追加関税の発動を決定すると、メキシコなどが報復措置の発動を表明し貿易摩擦への懸念が強まる中、108円台後半で上値重く推移。翌6月1日はイタリアで連立政権が樹立する運びとなったことに加え、米経済指標の発表前に短期のポジション調整が入り109円台半ばまで上昇。更に米5月雇用統計は、非農業部門雇用者数、平均時給上昇率がともに市場予想を上回り、一時109.73円まで上昇し、109.50円で越えた。

今週のドル/円相場は底堅い展開を予想。先週のドル/円はイタリア、スペインを巡る欧州政治リスクの高まりを受けたユーロ/円の下落が主導する形で先週からの下げ幅を拡大する動きとなったが、年初からの相場ポイントとなっている108円はサポートされ、イタリア政権の早期樹立の動きもあり、結局週初の水準まで買い戻される動きとなった。欧州政治不安は既に大方の悪材料が織り込まれ徐々にマーケットの焦点から外れると考えられ、また北朝鮮懸念についても当初の予定通り6月12日米朝会談開催が期待される。米5月雇用統計については、賃金の数字も強く出て良好な結果となり、翌週にFOMCを控えている中で、ポジションをドルショートに傾けづらい状況。ドル/円、クロス円のロングも相応に整理されていることを鑑みれば、ドル/円は短期的には戻りを試しやすいか。但し、米通商政策を巡っては、自動車への関税等不透明感は依然として強く、再度リスクオフが強まる動きには警戒したい。

(3)先週までの相場の推移

先週(5/28~6/1)の値動き: 安値 108.12 円 高値 109.83 円 終値 109.50 円



(資料)ブルームバーグ

## 2. ユーロ

為替営業第二チーム 山本 一暁

(1) 今週の予想レンジ: 1.1480 ~ 1.1780 124.80 ~ 128.80 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロは対ドル、対円で下に向って来いとなった。週明け28日、ユーロ/ドルは前日にマッタレッタ大統領がユーロ懐疑派エコノミストの経財相起用を拒否したことを受けてショートカバーが先行し、一時1.1728まで急伸。しかしながら、同大統領が来年初旬までに再選挙を実施する計画を命じたことが報じられると、同国のユーロ離脱に係わる国民投票に対する懸念が再燃、伊国債が急落するなか、一時1.1608まで戻り売られた。その後は米国が祝日だったこともあり、1.16台前半で小動きとなった。対円でも同様の値動きとなり、一旦、128.53円までショートカバー後に、欧州時間に戻り売られて127円台前半まで下落する荒い値動きとなった。29日、欧州市場スタート後からイタリア・スペインの政局不安から独10年債利回りが低下するとユーロ/ドルは1.16台前半から1.15台前半まで急落。五つ星運動のディマヨ党首が「ユーロ離脱を模索したことはない」との見解を示したと伝わると1.15台後半まで値を戻す場面もあったが、伊メディアが今夏の再選挙予想を報じたこと等から1.15台前半まで押し戻された。対円では東京時間こそ126円台半ばから後半で推移していたが、欧州時間のユーロ売りに125円ちょうど絡みまで急落。世界的株安を背景に円買いが強まるなか、北米時間には、一時週安値となる124.62円まで下攻め後に125円台半ばまで値を切り返すといった、神経質な値動きが継続した。30日、ユーロ/ドルはドイツ4月小売売上高が市場予想を大幅に上回ったことやマッタレッタ大統領が再選挙について真夏を避けたい意向を示したことでショートカバー優勢の展開。1.16台を回復すると、伊大統領が連立政権樹立に理解を示し、再選挙回避を模索しているとの報道にユーロ買戻しが強まり一時、1.1676まで急反発を見せた。対円では日経平均大幅安に125円台前半で上値重く推移後、海外時間でのユーロ急反発に一時、127.32円までこちらも急反発した。31日、ユーロ/ドルは伊国債買戻しや欧州株上昇を背景に欧州時間に1.1725まで続伸したが、米国の鉄鋼・アルミ関税発動に1.16台半ばまで反落後、伊連立政権合意を受け1.17台に戻した。対円では127.75円までじり高後、米国の輸入関税を巡りリスクオフとなると126.34円まで急落。一巡後は伊連立政権合意を受けて127円台前半まで反発した。1日、ユーロ/ドルは米長期金利上昇を横目に軟調に推移すると、短期筋のストップロス巻き込み一時1.1617ドルまで下押し。その後1.16台後半まで切り返す場面もあったが、戻り鈍く越週した。対円では株高を受けて128.14円まで上昇したが、北米時間ではユーロ/ドルの下げにつれて127円台前半まで売りに押される場面も見られた。一巡後は127円台後半まで切り返したが、週を通して神経質な値動きとなった。

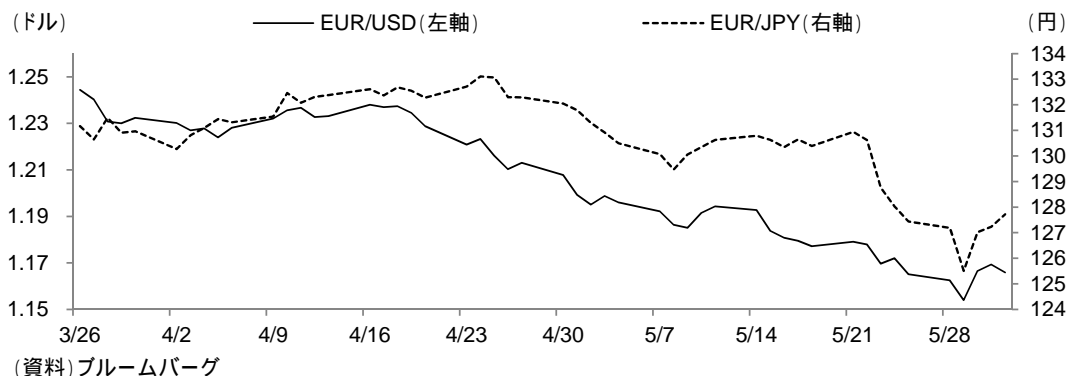
今週のユーロ相場は、神経質な値動きの継続を予想する。一旦は悪材料出尽くしの感もあるとはいえ、今週もイタリア・スペインの政局不安が燦々。イタリアではポピュリズム政党とEU懐疑の右派政党が連立政権で合意したことから、今後は拡張財政やEUとの対峙スタンスに注目が移っていきそうだ。ただ、ユーロ離脱を問う再選挙の可能性等、先行き不透明感は根強くヘッドラインに一喜一憂し相応の値幅を伴う荒い値動きにも注意が必要か。また、スペインについては首相不信任決議により、今後の議会選のスケジュールや選挙情勢などが注目を集め、こちらも予断を許さずユーロ相場の重石となりそうだ。経済指標としては、欧州域内経済のピークアウトも囁かれるなか、各国PMIの結果は確認しておきたい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(5/28~6/1)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1510 高値 1.1728 終値 1.1661

(対円) 安値 124.62 高値 128.53 終値 127.74



## 3. 英ポンド

欧州資金部 芹澤 隆博

(1) 今週の予想レンジ: 1.3250 ~ 1.3500 144.50 ~ 148.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は英国要因というよりも、欧州における政治不安や米国による欧州等への関税賦課といった外部要因にふらされる展開となった。週初、イタリアのコンテ政権の組閣人事が大統領により拒否されたことを材料にユーロが大きく動く中、英米が休日ということもあって英ポンドの動きは限定的となった。火曜日にイタリア債が急落し、対独スプレッドが拡大するとまずユーロが下落を開始。ロングホリデー明けの英ポンドもつられて下落し、ポンド/ドルは今までサポートとなっていた1.33を下抜けるとストップを巻き込み、週の安値となる1.3205をつけポンド/円も年初来安値となる143.20円をつけた。通貨オプションにおける1か月物アット・ザ・マネー(ATM)のボラティリティも7.5%から8%台へと急騰。マーケットにおけるガンマショートポジションもスポットの急激な変動に拍車をかけたと思われる。また、一部にはスコットランド独立運動が再燃しているとの懸念があったものの影響は限定的となった。その後、イタリア五つ星のディマイオ党首からイタリアのユーロ離脱を目指したことはないとの発言や、イタリア債の入札が好調な結果となったことから過度に極まった南欧政治不安が緩和。ユーロが値を戻す動きにポンド/ドルも値を戻し1.33台を回復した。金曜日発表された米5月雇用統計は、NY朝方のトランプ大統領の「雇用統計に期待している」というツイートから強い数字が期待された向きもあり、実際の数字が18年ぶりとなる低失業率を記録するなど総じて強い数字であったにもかかわらずドル買いの動きは限定的。ポンド/ドルは結局週初と同じ1.33台半ばでの越週となった。

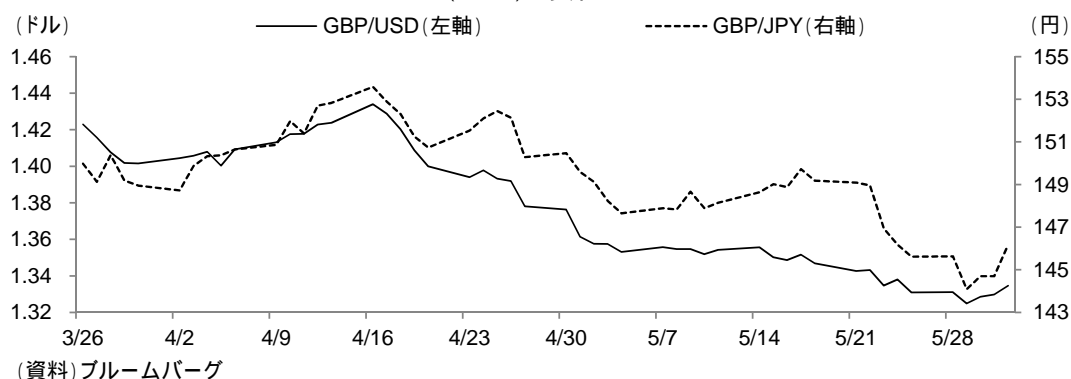
今週の英ポンド相場は底堅い展開を予想する。目先目立ったイベントがないため、欧州の政治不安に関するヘッドラインにふらされるリスクには注意が必要と思われる。ただ、ユーロ/ドルやポンド/ドルの通貨オプションにおけるボラティリティが先週のレベルまで下落していること、また下落への警戒感を示すリスクリバーサルも縮小していることから、市場のリスクオフへの警戒感はそれなりに軽くなっているものと思われる。テクニカル的にもポンド/ドルは週足における一目均衡表の雲上限にて止まっており、1.32台はサポートとなると思われる。また、ユーロ/ポンドの週足も同じく雲下限にて抑えられており、ポンド下支えの要因となろう。発表される指標としては4日(月)の英5月マークイット/CIPS 英国建設業PMIと5日(火)の英5月マークイット/CIPS 英国サービス業PMIがあるがいずれも重要度は低く、相場への影響は限定的となろう。英国外の要因としては、6月12日に向けた米朝首脳会談に関するヘッドラインリスクであろう。直接は英ポンドに影響はしないと思うものの、クロス円主導で振られる恐れがあり注意が必要となる。

(3) 先週までの相場の推移

先週(5/28~6/1)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3205 高値 1.3360 終値 1.3348

(対円) 安値 143.20 高値 146.31 終値 146.17



## 4. 豪ドル

為替営業第二チーム 田家 裕介

(1) 今週の予想レンジ: 0.7400 ~ 0.7600 82.00 ~ 84.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.74台後半から0.75台後半でのレンジ相場となった。週初28日、0.75台半ばで取引を開始した豪ドルは一時0.7581まで上昇。しかしイタリアのマッテレッタ大統領が「5つ星運動」と「同盟」が首相として指名していたコンテ氏の財務相人事で合意できず、元IMF高官のコッテリ氏を暫定首相に指名。イタリア政局への不透明感の高まりからリスクオフの展開となったことで豪ドルは0.75台半ばまで反落。29日、イタリアやスペインの政局不安が金融市場に波及する中、リスク通貨の豪ドルは0.75丁度付近まで続落。30日、週安値0.7477まで下落後、豪4月住宅建設許可件数が予想対比悪化したものの、イタリア政局への不安が後退したことから豪ドルは前日の下げ幅を全て取り戻す展開となり、0.7584まで反発。31日、リスクオフの巻き戻しが継続したことから豪ドルは底堅い展開となり、週高値0.7593まで続伸。月初1日、米国が鉄鋼とアルミニウムへの関税を発動するとの報道から貿易戦争への警戒感が高まったことで0.75台半ばまでじりじりと下落。その後、良好な米5月雇用統計の結果を受けて豪ドルは0.7514まで下落する場面も見られたが、0.7570付近ですぐに反発し、同水準で越えた。28日、82円台後半で取引を開始した豪ドル/円はイタリア政局の不透明感からリスクオフの展開となったことで29日にかけて一時81円台前半まで下落。その後、政局不透明感が後退したことから82円台半ばまで急反発。1日には82円台後半まで底堅く推移し、同水準で越えた。

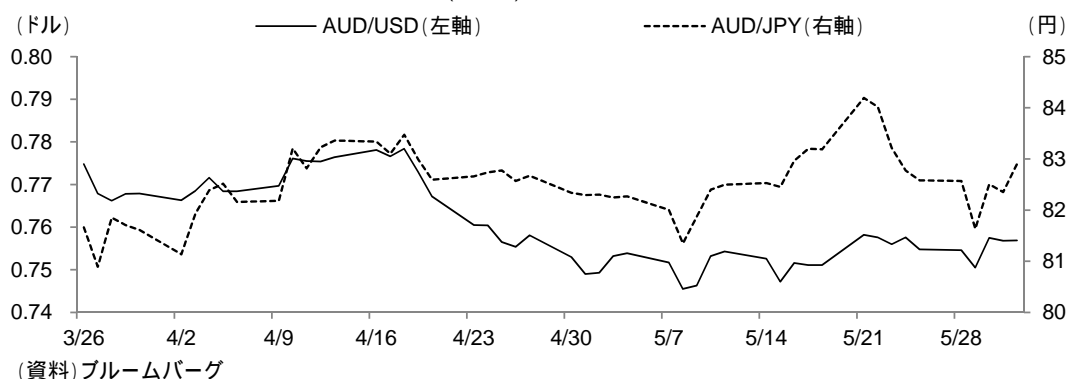
今週の豪ドル相場は上値重い展開を予想する。5日(火)の豪州準備銀行(RBA、中央銀行)理事会では政策金利の据え置きが予想される。企業投資や輸出が上向いているものの、住宅市場の減速や賃金の伸び悩みで個人消費の先行きが不透明である中ではタカ派な会合になる可能性は低いだろう。またイタリアとスペインを巡る政治リスクはやや落ち着いたように見られるものの、先週末のG7では主要各国が米国の鉄鋼とアルミニウムに対する関税発動に懸念を表明する等、貿易戦争への懸念が再燃している印象である。貿易を巡る先行き不透明感が高まっている中ではオーストラリアの主要輸出品である鉄鉱石などのコモディティ価格の大幅な上昇は期待しにくい上、テクニカル的には一目均衡表の雲下限が豪ドル相場の上限として意識されることで今週の豪ドル相場は上値の重い展開になると予想する。今週は重要イベントとして4日(月)に豪4月小売売上高、5日(火)に豪1~3月期国際収支とRBA理事会、6日(水)に豪1~3月期GDP、7日(木)に豪4月貿易収支の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(5/28~6/1)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7477 高値 0.7593 終値 0.7569

(対円) 安値 81.03 高値 83.07 終値 82.91



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。